

令和3年 7月7日(水曜日)掲載

この記事・写真等は中日新聞社の許諾を得て転載しています。

「太陽の城」跡地 どう活用？

コンベンション施設建設の協議が止まっている岡崎市明大寺本町の旧児童館「太陽の城」跡地の活用方法について、中根康浩市長と岡崎商業高校（同市栄町三）の生徒による意見交換会が六日、同校であった。生徒たちは跡地の活用についてさまざまなアイデアや要望を中根市長に伝えた。（土屋あいら）

岡崎商高生と中根市長が意見交換会



太陽の城跡地について生徒たちから意見を募る中根市長（左）＝岡崎市栄町3で

生徒からは「市外から人が来るような岡崎の歴史を生かした建物」や「乙川を活用したアスレチックパークを造り、遊んだ後に休憩できるようなインドアとアウトドアが共有できる場所」などの要望が上がった。中根市長は「周辺に乙川と岡崎城がある跡地をどう活用していくのか。市民が望んでいる物にできるよう、皆さんの意見も取り込んでいく」と応えた。

参加したのは国際ビジネス科で岡崎の歴史や観光ビジネスを研究する「岡崎学」に取り組み三年生十九人。市職員が岡崎のまちづくり戦略を講義した後、

太陽の城跡地の概要や経緯を説明した。講義を聞いた竹内萌生さん（一七）は「岡崎についてまだ知らないことがたくさんあると気が付かされた。跡地は子どもや外国人も気軽に立ち寄れるような空間になるといい」と話した。

跡地は名鉄東岡崎駅から徒歩七分で、約八千七百平方メートル。二〇二三年度中にコンベンション施設併設のホテルが開業予定だったが、昨年十月の市長選で当選した中根市長の公約に従って昨年十二月に建設中止を決めた。その後「市民の声を聞きたい」と方針を変え、今年二月に中止のための協議を一時中断。施設整備事業者と協議凍結を伝えた。

市は今後も市民広聴会などで幅広い世代から意見を集め、十二月末までに事業を中止するか推進するかの方針を決定するとしている。